

職業としての大学教員を分析する

森 和夫
東京農工大学 大学教育センター

sigedu 2004年12月度月例会
2004年12月15日(水) 18:30 - 20:00

ねらい

- ・大学教育が今大きな変革を迫られて、動き出している。この契機は独立行政法人化である。成果中心の予算配分や実績評価の体制が教育C O E やG P 等も相まって実施されつつある。このような時代にあって大学教育はどのように進めていくべきかを考えることにしたい。
- ・大学教育の担い手は大学教員であるが、その能力資質はどうなっているのだろうか。大半は研究能力の評価のみによって採用され、教育職に就いてきた。この弊害は何処でつじつまを合わせることになるのであろうか。大学教員の能力開発はまだ、始まったばかりである。その可能性はあるか、どのような方法と手段によってなすべきか、実行にあたって越えなければならない課題は何かについて考えてみたい。

プログラム

- ・F Dとは何か、何が求められているのか
- ・大学の教育、何がおかしいか
- ・大学教員の教育は可能か、何が困難点か
- ・大学の機能とは、大学教員の業務とは
- ・F Dこそ実践がよく似合う - 「講演型から実践型へ」で得たものは何か
- ・徳島大学全学F D推進プログラムの概要(プログラムの意図と推進体制)
- ・教員の職業生涯を支える能力開発システム